

「お買物循環バス」で消費者を呼び戻す

## 松 阪 商 工 会 議 所

機関名	松阪商工会議所	
所在地	三重県松阪市若葉町161-2	
電話番号	0598-51-7811	
地域概要	(1)管内人口 12万5千人 (平成14年調べ)	(2)管内商店街数 8 商店街
事業の対象となる商店街の概要	(1)商店街数 7 商店街 (平成14年調べ)	(2)会員数 218商店 (平成14年調べ)
	(2)空店舗率 10.3% (24/233) (平成12年調べ)	(4)大型店空き店舗 0 店
商店街の種類	1.超広域型商店街 2.広域型商店街 3.地域型商店街 4.近隣型商店街	

### 【事業名と実施年度】

平成13年度 駐車場対策事業 循環バス運行  
 総事業費 14,246千円

### 【事業実施内容】

#### 1. 背景

伊勢平野の中心に位置する三重県松阪市は江戸時代から城下町・宿場町として栄えてきた。明治22年の町制施行、昭和8年市制施行の後、周辺町村との合併を経て、今日の松阪市が出来上がった。

中心市街地はこれまで文字通り街の中核としての役割を果たしていた。しかし、交通網の発達と都市化の進展に伴い、中心市街地周辺部には住宅団地の開発が進み、周辺地域には大型店の出店が相次ぐと、車利用を前提とした郊外型生活圏が形成され、中心市街地に



松阪市概観

空洞化を進行させるとともに旧来からの商店街や中小小売店は厳しい状況下に置かれるようになった。

そこで、既存の都市機能を有効活用していくためには、多くの消費者が中心市街地に訪れやすくする工夫が必要であり、とりわけ高齢者や子供を中心とした車を運転できない周辺住民の来街・回遊のための交通手段を確保することが重要であると考えられる。

本事業では、中心市街地への来街・回遊のための交通手段を確保することにより、商店の活性化や魅力づくり、また店主の意欲喚起につなげることを目的に、周辺地域と中心市街

地とを結ぶ循環ルートによるバス実験運行実施し、潜在的なニーズの把握と本運行に向けた事業採算性について検討した。

## 2. 事業内容

中心市街地内の主要商店街、市役所・市民病院等の主要公共施設、松阪城跡などの歴史文化施設と郊外の住宅地を結ぶ全長12.9 Kmのルートにおいて合計28箇所のバス停を設置し、小型バスによる実験運行を実施。

### (1) 期間

平成13年8月17日～  
平成14年3月31日

### (2) 運行計画の策定

実施委員会、作業部会を設置し、実験路線のダイヤの編成、バス停位置など、利用者の安全性や利便性に充分配慮しながら運行に必要な事項を検討し、運行計画を作成。

### (3) お買物循環バス実験運行

#### 1) 運行期間

10月5日～12月25日までの  
約3ヶ月間(81日間)

#### 2) 運行時間

午前9時～午後5時までの8時間

#### 3) 運行路線

駅を起点とする1ルート、往復2路線

#### 4) 運行頻度

1日当たり往復各8運行、計16運行

#### 5) 料 金 無料

### (4) バスの使用車両

1) 使用車両 小型バス常時2台  
(バス事業者の既存車両を使用)

2) 車両デザイン 各々の車両に異なった、親しみやすいデザインを施した

### (5) 調査内容

- 1) 各停留所別の乗降客数を毎日計測し集計・分析を実施。
- 2) 利用者へのアンケート調査の実施
- 3) ルート沿線の商店街内の各個店へのヒアリング調査の実施



運行ルート及びバス停



お買物循環バス

(6) 協賛イベント

1) 松阪市商店街連合会の協力によるバス利用者に対する特別サービスを実施。

(7) 事業のPR

- 1) 商工会議所会報での記事掲載(4回)
- 2) 商工会議所市民版ニュースでの記事掲載(1回)
- 3) 地元ケーブルTVでの放映(3回)
- 4) 市広報での記事掲載(1回)
- 5) 新聞へのチラシ折込  
(全市1回、沿線1回)



イベント(抽選会)

【 効 果 】

(1) バス利用実績

- 1) 3ヶ月間の延べ乗車人員は36,033人であり、一日平均は445人、一便平均は28人と大変好評であった。
- 2) 曜日別では、土曜日・日曜日・祝日が多く、時間帯ではお昼前後の利用が多かった。また女性客が全体の7割を占め、60歳以上の高齢者の利用が6割を超えていた。
- 3) 目的地としては、駅、商店街、病院が多く、また普段自分で車を運転している人が14%みられた。

(2) 事業の認知度

- 1) 利用者アンケートの結果によれば、本事業に関する情報入手先としては、新聞折込チラシが最も多く(48%)、次いで市の広報(34%)、友人・知人の紹介(28%)、新聞記事(23%)と続く。
- 2) 新聞折込チラシについては、運行時刻表とともにルート図、バス停位置の詳細図、バス車両のデザイン等を掲載したこともあり、利用促進に役立つものと思われる。

(3) 集客効果

- 1) 商店街および各個店への集客効果がみられた。特に駅前の百貨店、駅前商店街で人通りが増加し、また土曜日・日曜日が特に増加した。
- 2) 主に高齢者や家族連れが多く、また住宅地からの新規の来店客がみられた。
- 3) 利用目的は、買物が6割を超えていることから、これまで家族の車や自転車で移動していた人が、気軽に気兼ねなく買物に訪れることができるようになり、来街者の増加をもたらしたと考えられる。

(4) 商店街の魅力づくり

本事業に合わせ、商店街でもバス利用者に対する独自サービスを検討するなど、商業者の意欲喚起にもつながり、商店街の魅力づくりに役立つものである。

(5) 高齢者において不可欠な交通手段

1便当たり28人の利用者がみられ、予想以上に潜在的な利用者があることが明らかになった。またその6割が60歳以上の高齢者で占められており、高齢者が自由に移動できるこ

とで高齢者の健康、生き甲斐づくりに大きな役割を果たすものと考えられる。

## 【課題・反省点】

### (1) バス運行上の問題点

- 1) ルート設定については、多方面からの要望もあり、実施委員会、作業部会で決定したルートを沿線住民の方々に承認していただくのに困難を極めた。
- 2) バス停の設置場所についても同様に、設置場所となる家の住民の方に直接了解を得ることが必要であると同時に、設置場所の安全性にも配慮することが必要となる。側溝への蓋の設置や縁石の撤去など、利用者の安全を確保する対策を講じる必要があり、行政との協力体制は不可欠である。
- 3) 幹線道路をさけて住宅に近い生活道路をルートに設定していることにより、道路の幅員が十分でない所も多く、他の車と対向しづらい場面が見受けられた。
- 4) 既存のバスルート以外をルートに設定していることから、予期せぬタイミングで道路工事が開始される場合も多く、急遽迂回路を設定したり、工事の延期を依頼するなどの措置を講じる必要が出てきた。

### (2) 今後に向けた課題

- 1) 今回は潜在的需要を把握するために運賃無料により実施したが、本格運行に向けての採算性を検討する上で、次の段階では有料運行にした場合どの程度利用者があるかを検証する必要がある。
- 2) 今回のルート以外でも、バス空白地帯で人口集積がある地区を結ぶルートを設定し需要を検証する必要がある。
- 3) 商店街、商業者による運賃サービスや住民の協力が事業収支改善にどの程度効果があるか検証する必要がある。
- 4) 車両については、今回は実験運行ということもありバス事業者既存の小型バスを利用したが、今後の本運行に向けては、高齢者の利用を考えて補助ステップの設置や車椅子での利用が可能な車両の導入が必要である。

## 【関連URL】

松阪商工会議所

<http://www.mctv.ne.jp/~kaigisho/>